

## 研究機関名：東北大学

受付番号：	2015-1-812
研究課題名	ヒト尿路上皮癌の進展、悪性度関連因子および性ステロイド受容体等の発現についての検索
研究期間	西暦 2013 年 5 月（倫理委員会承認後）～ 2020 年 3 月
対象材料	<input checked="" type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 膀胱、尿管、腎盂、尿道、リンパ節、肝臓、肺） <input checked="" type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 膀胱、尿管、腎盂、尿道、リンパ節、肝臓、肺） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ ）
上記材料の採取期間	西暦 2000 年 1 月～ 2013 年 4 月の期間、癌の診断で切除された膀胱・尿管・腎盂・尿道およびそれらを原発とした尿路上皮癌の転移として切除・生検をされた上記臓器
意義、目的	近年、膀胱、尿管、腎盂、尿道に発生する尿路上皮癌の罹患率および死亡率は増加してきている。一方、尿路上皮癌の進展や予後因子に関する決定的なバイオマーカーはこれまで十分解明されておらず、また尿路上皮癌、とくに再発・転移癌に対する有効な治療法が確立されているとは言い難い。本研究では、様々な転写因子、増殖因子などの発現をヒト尿路上皮癌組織で解析する。その際、近年報告されている性ステロイド受容体やその関連因子についての検討も含める。これにより、今後の新しい尿路上皮癌の診断および治療法の可能性を模索する。
方法	1. 東北大学病院にて手術時に採取された尿路上皮癌の原発部、転移部のパラフィンブロックないし凍結組織を用いて、様々な転写因子、増殖因子、性ステロイド受容体等の発現をヒト尿路上皮癌組織で免疫組織化学的に検討する。 2. 上記症例のうち凍結組織が存在するものについては、それらに強く発現するメッセンジャーRNA(mRNA)や mRNA の発現に影響を及ぼすとされる短鎖 RNA、すなわちマイクロRNA(miRNA)の発現を、マイクロアレイ法、定量 RT-PCR、ウエスタン・ブロッティング法等で同時に検索する。さらに、尿路上皮癌組織中のステロイドホルモンやサイトカイン等の濃度を微量濃度計測が出来る液体クロマトグラフィー質量分析法(LC/MS/MS)により解析する。 3. 上記の結果を、臨床病理学的因子と比較検討を行う。
問い合わせ・苦情等の窓口	藤島史喜 病院病理部 TEL: 022-717-7440